

# ディジタイザーによる土木積算システム

株式会社 大林組

芳 本 吉 宏

正会員 ○浜 鳴 鉱一郎

## 1. まえがき

土木工事の積算は、作業の効率化を図るため、つぎのような種々の方法により、電算機を利用していっている。すなわち、(1)設計計算と連動した積算方法、(2)特定工事に関しては、比較的少ない計算条件により各種数量を算出する方法、(3)特殊な速見表から概略数量を知る方法、(4)統計分析による計算式を用いて、概略数量を算出する方法である。しかしながら、まだまだ出来上がった設計図面から手作業で数量を算出せざるを得ないような作業も多い。

手作業における積算の基本作業は、積算項目毎に線の長さ、面積、体積を計算することにある。たとえば、コンクリート構造物では、平面図または断面図から面積を算出し、奥行長さを掛け合わせるとコンクリート量が計算される。あるいは、ヒューム管、石積、擁壁というような構造物単位で、見積に使用する長さや面積量の算出法もある。

このような作業は、一定の計算データから積算することは困難である。したがって、積算の基本作業の能率を向上させ、単純な作業を迅速に処理することにより効率化を図ることが可能となる。

本文では、積算の電算化の中で取り残されている部分、すなわち、設計図面から数量を算出する積算方法の省力化を図るために、ディジタイザーを利用した積算システムを紹介する。

## 2. 機械構成

ここで用いる機器は、図-1に示されるように、オンライン制御された各種端末機器とホストコンピューターから計算書を出力するプリンターから構成されている。

ディジタイザーはデータ入力の中心機器で、図形情報を座標値として読み取る。グラフィック・ディスプレイは、入力された座標値を図形表示することによりチェックを容易とする。また、キーボードからの数値入力により図形を作成したり、数量集計の結果を表示し、ハードコピーを得るために用いられる。

## 3. ディジタイザーの利用方法

従来、設計図面から寸法表示のないものの数量を積算する場合、長さであれば、定規あるいはキルビメーターを用いる。また、面積であればプラニメーターを用いる。キルビメーターとプラニメーターの使用にあたっては、同一数量を2回以上測定し、最初の測定値の確認あるいは測定値の平均値を求めたりする。

これらの作業を、ディジタイザーを利用して、以下のように改善することができる。

- (1) より正確な測定値を得ること。
- (2) 入力した図形データのチェックが可能であること。
- (3) 迅速に作業を行い得ること。
- (4) 測定値を管理し、集計作業を自動化すること。
- (5) 集計データを簡単に得られること。

ディジタイザーは、図面上から、 $\Sigma$  座標の点データを効率的に採取できる。この点座標データは、制御方法により、点、線、面積の3要素に区分できる。そして、これらは次の利用形態を取り得る。

- (1) 点……個数として数えることができる。
- (2) 線……長さをしたり、あるいは奥行方向の長さを乗じて、面積を表現する。
- (3) 面積……平面の面積あるいは斜面積を算出できる。さらに奥行長さを乗じると体積を表現できる。

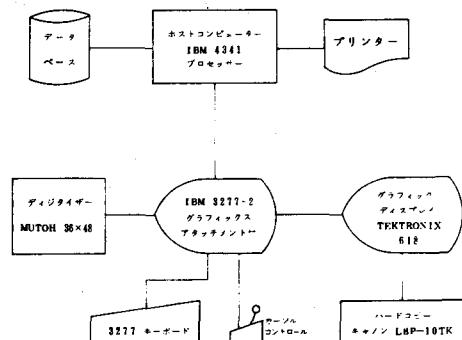


図-1 機械構成

#### 4. ディジタイザーによる積算システム

##### (1) システム構成

本システムは、宅地造成工事に関する積算システム、構造物に関する積算システム、および汎用積算システムに大別される。

宅地造成工事では、次の5つのサブシステムに分類している。表-1は、これらに含まれる詳細な積算項目についてまとめたものである。

###### a) 土地利用サブシステム

###### b) 防災工事サブシステム

###### c) ヒューム管工事サブシステム

###### d) 道路・擁壁工事サブシステム

###### e) 全体数量集計サブシステム

この中で、ヒューム管工事については、縦断図を対象としている。その他は平面図から読み取りを行う。また、全体数量集計は、a)～d)の数量をまとめたり、数枚にわたる図面の集計を行う。

また、構造物に関する積算システムでは、次の2つのサブシステムを考えている。

###### a) 平面形状・断面形状サブシステム

平面図あるいは断面図で表現された、奥行方向に同一形状となる構造物のコンクリート量および型枠量を算出する。

###### b) 特殊形状サブシステム

立体的に特殊な形状の構造物のコンクリート量および型枠量を算出する。

最後に、汎用積算システムとは、見積のための積算だけに限らず、単純に面積や線長を算定し、集計する目的に使用するシステムである。

##### (2) データ管理システム

宅地造成工事に関する積算システムでは、大量の数量データが発生するため、以下のデータを保存管理する。

###### a) 全体数量データ

同一工事では、サブシステム毎に図面が複数でも集計可能とし、各図面単位に積算項目別の合計値を記憶させる。

###### b) 個別数量データ

サブシステムの図面単位の数量データで、積算項目の個々に読み取った線長、面積値を記憶させる。

###### c) 個別座標データ

個別数量データを算出した座標値データである。

表-1 宅地造成工事に関する積算項目

##### 1 土地利用サブシステム

- (1) 開発面積、造成面積、切土面積、盛土面積
- (2) 幹線道路、準幹線道路、区画街路、緑道、水路
- (3) 一戸建住宅、低層集合住宅、中高層集合住宅、公共住宅
- (4) 近隣公園、児童公園、緑地、洪水調整池、幼稚園、小学校、中学校、図書館分館、集会所、公民館、保育所、児童館、診療所、防火水槽、警察派出所、行政出張所、郵便局、汚水処理場、配水池、店舗

##### 2 防災工事サブシステム ( )内は細項目数

- (1) ヘドロ除去(5)、表土除去(5)
- (2) 伐採(3)、伐根、段切工
- (3) 切土面積(3)、盛土面積(3)、地盤改良(4)
- (4) 種子吹付、張芝(3)、筋芝(3)、モルタル吹付(3)
- (5) 法枠工(5)、コンクリートブロック張(2)、ロックネット(3)
- (6) 有孔ヒューム管(13)、塩ビ有孔管(5)
- (7) 栗石暗渠、板柵組工(2)、竹柵組工(2)、柵柵組工(2)
- (8) 土堰堤(5)、栗石堰堤(5)
- (9) 布団かご堰堤(5)、板柵堰堤(5)
- (10) 素掘水路工(5)、板柵水路工(3)
- (11) 盲暗渠(3)、豎型集水井(6)

##### 3 ヒューム管工事サブシステム

- (1) 雨水排水ヒューム管
- (2) 汚水排水ヒューム管

##### 4 排水工事サブシステム

- (1) 横断側溝(5)、L型側溝(4)
- (2) U字溝(10)、U字溝堅型(3)
- (3) 現場打側溝(5)、ボックスカルバート
- (4) 集水井

##### 5 道路・擁壁工事サブシステム

###### (1) 道路

道路面積、道路附帯設備(15)、歩車道境界ブロック(3)、地先ブロック(3)

###### (2) 拥壁

普通ブロック積(8)、石積(8)、くずれ石積工(5)、重力式擁壁(6)、バットレス式擁壁(6)、逆T型擁壁(8)、L型擁壁(8)、もたれ式擁壁(8)、法枠基礎工、張ブロック基礎工

(3) 対話処理の方法一宅地造成工事について  
宅地造成工事に関する積算システムの対話処理手順について述べる。

- a) キャラクタ・ディスプレイで、コマンド“SEKISAN”をキー入力する。
- b) 全体数量データの入力方法指定メニューが表示され、次のいずれかを選択する（新規データの作成、既存データの取出、データの再使用）。
- c) サブシステムの選択メニュー（図-2）において、対象工事を選択する。同時に、個別数量および座標データの入力方法も選択する。

d) 図面セットプログラムにより、ディジタイザ上に図面を水平にセットする。そして、図面縮尺、チェック図の表示範囲を指定し、座標原点をカーソルで読取る。

e) 選択されたサブシステムの初期選択メニューが表示される（サブシステムの実行開始）。

f) 初期選択メニューでは、表-1の分類が表示され、それを選択すると、図-3のような小項目の選択メニューが表示される。

g) 小項目を選択し、線あるいは面積の構成点をカーソルで読取る。

h) 読取後、選択番号、各項目のブロック番号、線長あるいは面積値、各項目での累計値が、直ちにキャラクタ・ディスプレイに表示され、読取图形とブロック番号がグラフィック・ディスプレイに表示される（図-4）。

i) 全部のデータを入力後数値の表示機能を選択する。これは、積算項目別に、ブロック毎の線長、あるいは面積値とその集計値を、グラフィック・ディスプレイに表示し、ハードコピーを得ることができる（図-5）。

j) サブシステムの終了後、個別数量データと座標データの保存方法を指定し、図-2のメニューにもどる。

k) 他のサブシステムもc)～j)の処理により実行できる。全体を終了するとき、全体数量データの保存方法を指定する。

この処理の中で、ディジタイザにより効率的にデータを入力するため、同一積算項目は、連続して読み取り計算一表示を可能とし、キー操作を減少させている。

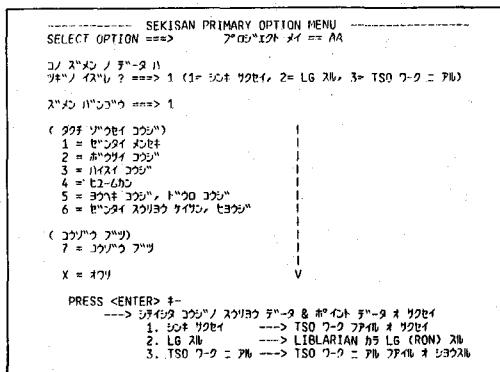


図-2 サブシステムの選択メニュー

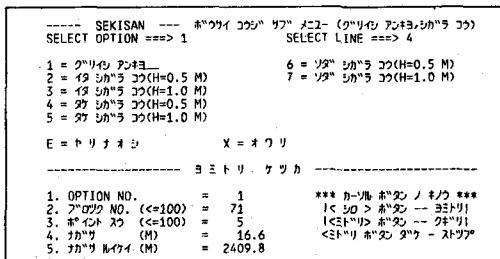


図-3 防災工事選択メニュー例

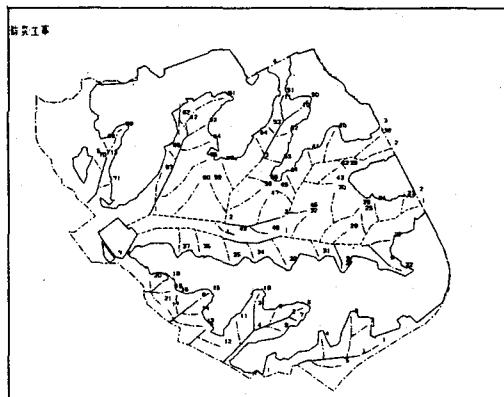


図-4 防災工事 - 図形表示例

防災工事		58.09.01	画面番号
			1 ページ 2
● 250	小計(m)	815.4 93.3 54.5 30.0 577.1 180.2 92.7 133.3 40.0	56.4 31.2 50.6 155.9 224.6 87.5 117.5
● 300	小計(m)	236.7	67.9 33.4 77.0 115.8
● 350	小計(m)	250.6	
● 400	小計(m)	40.0	
● 450	小計(m)	40.0	

図-5 防災工事 - 数値表示例

#### (4) 構造物に関する積算方法

ここで積算の対象とするのは、平面形状あるいは立面形状が、奥行方向に同一形状であり断面形状が変化しない構造物、および、円錐台、角錐台を含む立体形状を組み合わせた構造物である。

構造物の形状を認識する方法として、ディジタイザの利用は有効である。しかしながら、構造物の図面には、寸法が表示されている場合が多く、誤差を含まない正確な値で計算されることが要求される。

したがって、本システムでは、ディジタイザを用いた概略計算による積算方法、および正確な寸法を入力して厳密な数量積算を行う方法を用意している。いずれの方法によっても対話処理を行っている。グラフィック・ディスプレイには、図面名称、使用した図面の縮尺、構造物形状、積算数量を图形表示して、そのハードコピーを得る(図-6)。

積算内容は、コンクリート量および型枠量等である。構造物の図面単位に積算作業を行い、電算機に数量を記憶し、集計することができる。また、計算書も出力できる。

図形形状の入力方法は、次の3種類である。

- ディジタイザにより任意形状を入力する。
- キーボードから、図面形状を構成する点座標を相対座標で入力し、任意形状を作成する。
- 矩形、円、中空円、半円、中空半円、橢円、中空橢円、小判型等の寸法をキーボードから入力し、ディジタイザにより位置を入力する。

また、構造物の積算方法は、次のようにある。

- 構造物の外形データを入力し、面積と辺の長さを計算する。
- 構造物内部が中空となる中抜きの形状、あるいは平面形状では柱等の外壁とは独立して構築されるものがあり、これらの形状を入力する。これらの面積は、中抜きのものは-となり、内部に入れるものは+の面積となる。
- コンクリート量は、外形面積と構造物内部に入力した面積の合計値に奥行長さを乗じて算出される。
- 型枠量は、平面形状の場合は、すべての入力図形の周長を合計したものに奥行長さを乗じて算出される。また、立面形状の場合は、側面や底面が計算の対象となる。

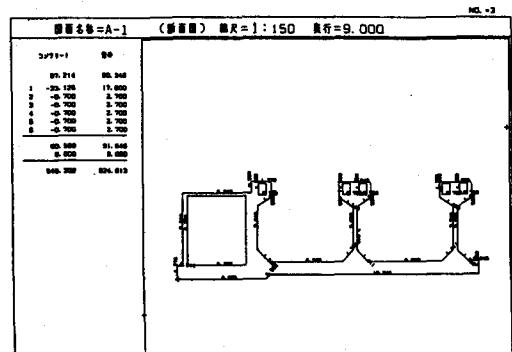


図-6 構造物に関する積算 — 使用例

#### (5) 汎用積算プログラム

特定項目の数量を算出する方法は、汎用性が乏しい。線の長さや面積に係わる作業は、これまで述べてきたもの以外にも相当多い。たとえば、断面法による土量計算とか、単に敷地面積を測定する等である。

したがって、ディジタイザを用いる算定方法は、見積るために積算すること以外にも適用範囲を広げて考える必要がある。このため、汎用的な積算システムを用意している。この場合、いかなる項目でも集計できるように、個々の長さや面積値に8ケタ以下の名称をつけ、同一名称毎に集計できるようにしている。

#### 5. あとがき

ディジタイザを使用した場合の作業効率は、システムの操作性に大きく影響される。キー入力の比率を下げ、ディジタイザの稼働率を上げることが重要である。本システムは、いくつかの業務に適用され、省力効果の高さが実証された。

一方、当社では種々の見積システムが既に開発されている。今後は、宅地造成工事に関する積算システムで作成されたデータを見積システムのデータに変換可能とし、積算と見積の整合性を高めていく予定である。また、構造物については、徐々に高度な積算集計ができるように機能拡張し、複雑な形状をした構造物の積算へと内容を深めていきたいと考えている。